

合同教育研究会議（3月13日開催）議事概要

1 開催日時

平成21年3月13日（金）15:00～17:00

2 場所

本部棟特別会議室

3 出席者

谷口学長、佐々木副学長、幸丸副学長、伊藤副学長、古澤事務局長、安藤学部長、佐藤学部長、菅原学部長、小針学部長、佐々木短期大学部長、千葉学科長、石橋学科長、植田短期大学部長、菊池学科長、宮腰英一委員、平山健一委員

（オブザーバー）石亀研究科長

（事務局）

小原教育・学生支援室長、小山研究・地域連携室長、菊池総務財務室長、豊岡宮古短期大学部事務局長、高橋経営企画課長、立花主査

4 会議の概要

○ 学長あいさつ

地方の公立大学のあり方について考えさせられた4年間であった。また、この会議を通じて貴重なご意見を伺うことで、私自身大変勉強になった。委員の皆様には深く感謝申し上げたい。

認証評価については、他大学への訪問調査等、学長として最も力を入れて対応してきたことの1つであるが、今般、評価結果が示された（公表は3/23、17時以降）ので後ほどご報告する。

【議 事】

（1）平成21年度計画（案）について

○ 佐々木副学長より資料に基づき説明があり、下記のとおり意見交換された後、了承された。

<主な意見等>

○ 中期目標期間は6年間だが、国立大の例で考えると5年目位には暫定的な評価が行われるため、実際は5年で大体終了していることが必要ではないかと思うが、本計画はそのようなつくりになっているのか。

○ 今年度は中期計画達成済の項目が大分増えている状況である。なお、本県においては、21年度に暫定的な評価（H17～20年度実績）が行われる予定となっており、来年度は今期の達成と次期の計画策定の両方を睨んだ年度になるものとして計画を策定している。

○ 東北大学においては、昨年度の「認証評価」に続き、今年度は次期の予算等に関わるものとしての「教育研究評価」を受けたところである。その経験から国立大の状況について申し上げると、「教育」と「研究」については評価項目が別立てになっている。本学においては「教育研究」としてまとめられている

記載が見受けられるので、本学の評価基準が国立大と同じになるようであれば、どう分けるかということが出てくるかもしれない。

- 来年度計画は岩手県を強調するものとなっている。「いわてを担ぐ！」ためには、広い視野も必要であることから、国際交流をもう少し押し出しても良かったかもしれない。また、基礎教養については、共通教育センターの機能も含めて、強化の必要性を感じている。

- 現中期計画は教育のために研究をどう活用するかという視点が強く出ているが、教育と研究は独立した部分があるので、宮腰委員の意見は次期中期計画策定の際には参考にしたい。

国際交流について本学部の状況を上げると、まずは県内の専門職の養成が求められているとともに、昨今の福祉職を取り巻く状況もあることから、足元を見直すことから始めたいと考えている。グローバルな視点が必要とは考えながらも、先生方にも研究だけはグローバルに行うような余裕がない。まずは岩手、日本について積み上げてから世界に、というつながりを持って進めて行きたいと考えている。

- 公立大学の評価については、認証評価結果を尊重して、評価が行われることとなっており、暫定評価についても同様である。また、認証評価についても、教育と研究は分かれた評価項目で行われているものである。また、基礎学力の向上が必要という点はその通りであり、来年度は教育力の向上を掲げて、入学から卒業までの一貫した教育課程を構築し、幅広い視野を持った学生を育てるために原点に立ち返ってやっていこうという内容になっており、学長の考えと認証評価結果を踏まえて、実施していくものである。

- 国の政策として、教育・研究・地域貢献の柱に4つ目として国際交流が入ってこようとしている。この課題は本学の課題であるとともに、日本の大学の課題である。すぐにできる話ではなく、いかに取り組んでいくか重要である。東北の高校生は、国際性については弱い部分があるかもしれないが、ポテンシャルは高いと思うのできっかけさえ与えれば、伸びていくのではないかな。そのきっかけとなる刺激をいかに与えていくかということを今後考える必要があるのではないかな。

- 具体的な文言等について変更することは可能なかどうか確認したい。

- 意見はもちろん重要であるが、全体計画の内容を具体的に詳細計画に落とし込むとなれば、日程的に厳しい。計画として謳うだけでなく具現化する取り組みがなければ説得力がないのではないかな。

- 計画として落とし込みが不十分というのはその通りである。国際交流関係については、来年度我々がどう実行していくのかについての学長の意見として受け止めており、取り組みの実施状況の把握については、別の方法を考えていきたい。なお、計画案についてはこれまで学内的に調整を重ねたうえで、審議いただいており、文言や表現についての修正は考えられるが、方針や取り組みについての追加や削除はあるべきではないと考えている。

- 重要なのはどう実施していくかであり、計画の文面を修正することより、例えば国際交流なら、実際に海外への派遣者を少しずつでも増やしていくことが大切である。

(2) 教務関係規定等の一部改正について

- 小原室長より資料に基づき説明があり、下記のとおり意見交換された後、了承された。

<主な意見等>

- 限られた予算を学生に振り向けるということは、先生方の協力なしにはできないことであり、英断だと思う。
- 高校生や留学生の中にも経済的に困っている学生が増えていると聞くので、いいことである。
- 認証評価の指摘にいち早く対応する改正内容であり、結構である。

【報告事項等】

(1) 認証評価結果について

- 佐々木副学長より資料に基づき説明があった。

<主な意見等>

- 今回の規定改正等、動きは早いようだが、指摘された事項は大学として重要だと思う。教養教育については、皆が参画してやれるかどうかは意識の問題があるので、そちらの面も取り組んで頂きたい。
また、外部資金の獲得については、テラヘルツには地域の期待があるものの、文系学部が多いこともあり難しいのではないかと感じた。なお、地域貢献等については、金額より共同研究の件数等をアピールすれば違ったかもしれない。
- FD についてはどこの大学も指摘されている。学生の学習面のみならず、メンタルヘルス等も教員が把握することが重要である。安全面の整備や大学院における論文執筆の作法や研究費の執行についてなども FD 活動として広げていくことが望まれる。また、学部の専門を活かした FD 活動もあると思う。
- 認証評価については、学生が純粋であるとの評価をいただいている。準備を含めて大変勉強になった。

(2) 開学10周年記念事業の実績について

- 古澤事務局長より資料に基づき説明があった。

<主な意見等>

- 節目の年に在任できたことは非常に幸運であった。海外の協定校からは学ぶべきことが多い。国際シンポジウム等の貴重な機会には、ぜひ学生や「いわて高等教育コンソーシアム」の連携校等からも多数参加してもらえよう取り組んでほしい。

最後に4年間のご協力に感謝申し上げる。岩手県が今後も人材を輩出していくためには黙々と頑張るだけではなく情報発信が必要だろう。